

第4学年 総合×社会×国語「われら みんなの 応援団」実践事例

橋本市立あやの台小学校 中谷栄作

1. 年間カリキュラムにおける位置づけ

「生きるってどういうこと？」という大テーマのもと、ESDカレンダー（図1）を作り、つながりを意識したカリキュラム編成を行っている。あらゆる授業にエッセンスを加えておき、子どもたちが自らつながりに気付いていくように授業をつくった。また、できるだけ本物に出会い、課題意識や目的意識に切実性と臨在性が与えられるようにも意識した。

本実践事例は、主にESDカレンダー内のA・B・C部分について、9か月間実践してきたことをまとめた。これからも子どもたちの根底にある「何のために学ぶのか」「何のために生きるのか」の答えを、子どもたちと共に探っていきたい。

4年「人権・福祉・環境」ESDカレンダー			生きるって どうということ？					・大きな心で、自他を尊重し、思いやる子ども ・すすんで挑戦し、それを応援し合う子ども ・支えの中で生きていることに気づき、感謝の念を行動化する子ども						
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
国語	新聞を作ろう（年間を通して新聞を作ってまとめる活動を繰り返しておこなう）													
	だれもが関わり合えるように						未来の自分に手紙を書こう							
理科	四季折々の植物・動物の様子を観察を定期的実施する。													
社会	水でつながり、みんなで生きる「きのかわ印」の私たち 命とくらしをささえる水 ごみのしよりと活用 消防・警察のはたらき			「和歌山県・橋本市」の良さを知り、ふるさと応援団になろう D 地いきのはってんにつくした人々 わたしたちの住んでいる県										
総合	A 生きるってどういうこと？きのかわ印から、つながりを調べていこう 木づかい運動について調べよう			C 心でつながり、みんなとかがやきあって生きる「ユニバーサルデザイン」の私たち ユニバーサルデザインについて学ぼう パラリンピックについて学ぼう 障がい者スポーツ体験 点字・手話教室 キャップハンディ体験 介護施設訪問					E 命でつながり、感謝しあって生きる「みんなちがってみんないい」の私たち 2分の1成人式			F ESD フェスタ 自分たちが学んだことを他の学年に伝えよう 学習をまとめよう 成長ブック		
特別活動	みんなであや小を応援しよう		B 社会見学 伊都浄化センター 浄水場			命をはぐむ授業							6年生を送る会で応援！	
保健・体育	運動会で応援！			育ちゆくからだとわたし マラソンで応援！									なわとび大会で応援！	
音楽	音楽祭													
道徳	ヘレンケラー物語 あたたかい言葉			心の信号機		うみがめの命 わたしのいのち		えがおのクリニックラウン		お母さんの請求書 おばちゃんがんばれ				

図1. 4年 ESD カレンダー

2. 単元の目標と概要

AとBの目標

自分たちの生活を支えてくれている人や自然の働きを知り、感謝と恩返しのはぐむこと
主な学習内容

- ①：水：当たり前に使っている水は、たくさんの努力と思いで作られていると気付く。
- ②：森：できるだけ使わない「エコ」だけでなく、考えて使う消費のあり方で、自分たちにできることがあると気付く。
- ③：人：伝え広げることが応援の一つになることを知り、伝えることに意欲をもつ。

Cの目標：ユニバーサルデザインの心をもって、みんなを応援できるようになること
「かわいそうで終わるな」を合言葉に取組を進めた。

3. ESDの観点（A・Bについて）

① ESDで育てたい見方・考え方

相互性と連携性	公平性と責任性	有限性と責任性
水資源や森林資源と人の生活は互いに働きかけあうシステムであり、循環する中で人と人、人と自然、自然と自然が違いに関わり合っていることを社会科の教材や人との出会いから学ぶ。	子ども兵の問題、学校に行けない子どもの問題などから自分たちの生活における当たり前が保障されていない国の実態を知ることから、公平・公正な社会の実現のために自分たちが当たり前前に感謝し、それを守り広げていく努力をするべきであると学ぶ。	水資源や森林資源が有限であることから、自分たちも協力して守っていく必要があることと、その難しさを学ぶ。

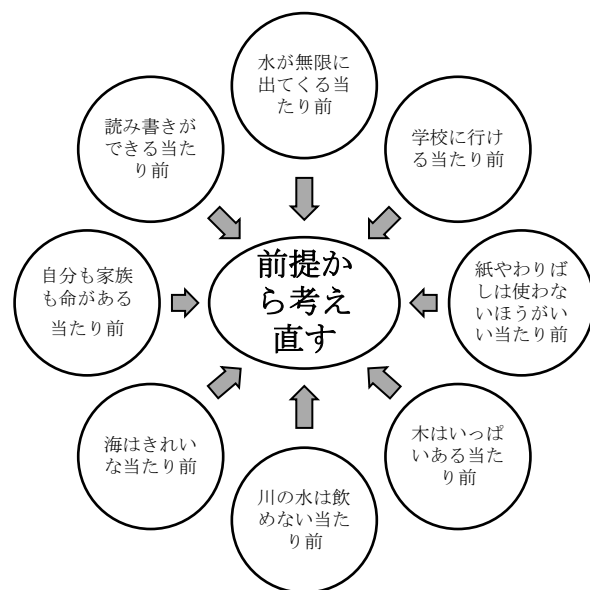
② ESDで育てたい資質・能力

批判的思考力	自分たちの生活に対して、このままでいいのか、という視点で課題を見つけ、改善策を追求していく中で身につける。
未来像を予測する力	これまでの自分たちの生活スタイルを続けることがいかに環境負荷が大きく、水資源や森林資源を守る仕事をしている人々の思いを踏みにじっているかを知り、それを続けることで未来の環境を悪化させることを学び、活動意欲を高めていく中で身につける。
多面的・総合的に考える力	水だけ、森だけ、人だけ、を守る考え方ではいけないことから、いろんな立場に立って考えることが必要であることを学ぶ。また、世界の子どもたちの暮らしを知ること、自分たちの生活が世界の常識ではないことを知り、生き方についても考え直し、学ぶ。
つながりを尊重する態度	紀の川じりしを合言葉に、自分たちが水、木、魚、人、すべてのものにつながっていることを学ぶ。それを教えてくれる大人たちとの出会いのなかで、思いを伝え合っつながることの大切さも学ぶことで、その態度を培う。
進んで参加する態度	応援団になることを合言葉に、自分たちにできることを探し、「かわいそうで終わらない」「自分にもできることがあるはずだ」という意識で学習を進める中で、その主体的な態度を培う。

③ SDGsへの貢献 目標4、11、12、14、15、16

④ ESDとしての価値

子どもたちにとっての「当たり前」を問い直すために、様々な角度からアプローチをかけた。子どもたちはたくさんの課題に直面するたびに自分たちの思い込みの多さに気づき、次第に「当たり前と知っていることを、前提から考え直すこと」が習慣化していく。そうして世の中を見返す習慣は、批判的思考力を支える視点である。また、前提を支えてくれている自然や人の仕事に気付くことで多くの物事に尊敬と感謝の気持ちをもつことができる。まちづくりを考えるうえで、それらの気持ちを養っておくことは非常に大切なことである。



5. 4月～7月の実施概要

学習活動	学習への支援	◇評価 ・備考
<p>【総】尾上さんとの出会い①「川上村の源流の水の良さを知る」</p>	<p>・視覚・触覚・味覚で水のよさを味わわせる。</p>	<p>◇源流と下流の水を比べて、課題意識をもつことができているか。</p>
<p>学習課題 「私たちの水はどこからきて、どこへ行くのだろう」 新聞にまとめて尾上さんに伝えよう</p>		
<p>【社】命と暮らしを支える水 【行事】下水処理場見学 【総】子ども兵について 識字率について 【国】グループで新聞をつくろう 【総】尾上さんとの出会い②「水の学びを森につなげる」</p>	<p>・子どもたちの問いから授業を組み立てる。 ・水の循環を知り、自分たちが紀の川を汚すこと、水を無駄にすることが源流の水を汚すことになることを知る。 ・森の存在にも触れる。</p>	<p>◇自分たちの「当たり前」を守っている自然や仕事に対する尊敬と感謝の気持ちをもつことができているか。</p>
<p>学習課題 「なぜ 木を使ってくれてありがとう なのだろう」 「紀の川じりし ってどういうこと」 新聞にまとめて尾上さんに伝えよう</p>		
<p>【社】ごみの処理と活用 【総】わりばしくらべ 紀の川じりしの学校 高野山で間伐体験 樹木医さんの話を聞こう 歌詞をつくろう うめぼしづくり体験 【国】一人で新聞をつくろう 【道】石っこ賢さん（宮沢賢治） 【総】尾上さんとの出会い③「水と森と人のつながりをまとめる」</p>	<p>・子どもたちの問いから授業を組み立てる。 ・水と森は相関関係にあることで、自分たちが消費者としてできることがエコ以外にもあることを知る。 ・一人ひとりが自分の考えの深まりを新聞に文章化できるように支援する。</p>	<p>◇自分たちの「当たり前」を守っている自然や仕事に対する尊敬と感謝の気持ちを、周りに伝えようとしているか。</p>
<p>生活課題 「これからも私たちにできる応援を考えて、取り組み続けよう」 10月に会えるまでに取り組んで、尾上さんに胸をはって出会えるようにしよう。</p>		
<p>【社】消防・警察の仕事 【総】未来を考えよう（キャリア教育）</p>		<p>◇どの仕事にも「思い」「願い」があることを知り、尊敬と感謝の気持ちをもっているか。</p>

子どもたちの学習の流れが違和感なく進んだことで、自分たちで学びを進めている感覚をもたせられたことが、カリキュラムとしての良さだと感じた。ふるさと学習としても、子どもたちが自分たちのまちのよさを知ったこと、つながっている他の地域のことを知ったことは大きな意味がある。10月に川上村で歌う子どもたちと作った歌の歌詞には、大切な学びが凝縮されている。その歌を歌うときには尾上さんをはじめ、この学習で関わった方々の顔を思い出し、「受け取った思いに、胸を張って向き合えるように生きよう」という学んだときのまっすぐな気持ちに立ち戻って、自然や未来のことを考えた行動ができる生き方をする意識の礎にしてほしい。

6. 9月～11月の実施概要

学習活動	学習への支援	◇評価 ・備考
<p>【総】車いすに乗った人に、なんと声をかけるだろう。</p>	<p>・担任が車いすで登場し、これから車いす生活なのだ演技。</p>	<p>◇自分の中の本音と建前の意見を葛藤させているか。</p>
<p>学習課題 「かわいそうで始まり、かわいそうで終わっていいのか」を調べ、みんながかがやいて生きるにはどうすればいいか考えよう</p>		

<p>【道】 ヘレン・ケラー</p> <p>【国】 手と心で読む（点字教材）</p> <p>【体】 車いすバスケット体験学習</p> <p>【総】 パラリンピック学習 教材→「I'm possible!」</p> <p>【道】 心のあく手・心の信号機</p> <p>【総】 高齢者体験学習</p> <p>【総】 視覚障がいと聴覚障がいについて 聞き取り学習</p> <p>【総】 車いす体験学習</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・障がいのある人が守るべき「弱い存在」と認識している自分たちの偏見に気付かせる。 ・できることとできないことがある、という点で平等であることに気付かせる。 ・自分に立ち向かい、命を輝かせて生きる姿に感動させる。 ・自分の命を輝かせたいと心から思える瞬間を作る。 	<p>◇自分たちの「当たり前」が人を傷つけてしまうことがあることに気づき、自分にできるやさしさを工夫しようと意識できているか。</p>
<p>学習課題 「自分たちの心に起きた変化を、応援団として大人に伝えよう。共に生きるユニバーサルデザインの社会づくりに協力をしてもらおう」</p>		
<p>【総】 ユニバーサルデザインとバリアフリーを調べよう</p> <p>【国】 誰もが関わり合えるように（スピーチ作成）</p> <p>【総】 スピーチで学びを伝えよう 発表内容を振り返ろう</p> <p>【保】 命をはぐくむ授業 (生命の誕生について)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・他人事やきれいごとだけで終わらないようなスピーチになるように、体験したり聞き取ったりしたことを自分事にして考えさせる。 ・一人ひとりが自分の考えの深まりをスピーチに文章化できるように支援する。 	<p>◇当たり前をどう変えていくべきか、自分の調べたことと、自分の変えたいことを思いとともに伝えることができているか。また、伝えられたことを受け止められているか。</p>
<p>学習課題 「応援団である自分たちがたくさんの応援の中で生きていることに気付こう。その応援に感謝する気持ちと、応えらえる大人になる決意を、2分の1成人式で伝えよう」</p>		
<p>【総】 この10年の社会の出来事</p> <p>【道】 お母さんの請求書</p> <p>【国】 今年の一句を作ろう</p> <p>【総】 この10年の私の出来事</p> <p>【総】 生き方宣言を作ろう</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分も、目の前の友達も、誰もが誰かの宝物であることに気づき、尊重すべきである客観的な事実に気付かせる。 	<p>◇自分とのつながりを意識して生き方宣言を考えらえるか。</p>

川上村を訪問し、歌で交流をする。これも「共に生きる」であることを感じさせ、テーマのつながりに気付かせる。

学習が大きいつながりを成し、ここに記載していない授業の間にもどんどんとつながりを意識した実践ができた。4年生の教材は「身の回りの当たり前を見直すこと」が共通価値なのだと、改めて感じ、それ自体がSDGsの達成に大きなかわりがあるように思う。子どもの中に「SDGsを調べたい」という児童が出てきているので、高学年に向けて、その種をまいておくことで、あと2年間で大きく花咲くのではないかと期待感でいっぱいである。

